

## 単元名 表を使って考えよう(1)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 表を用いて2つの数量の関係の調べ方を理解し、2つの数量の変わり方や対応に着目できる。  
 (2) 表や図から2つの数量の間のきまりを見付けることができるとともに、「数の少ない場合から順に調べる」思考法のよさが分かり、これを活用することができる。  
 (3) 伴って変わる2つの数量を見付け、それらの関係を表を使って進んで調べようとする。

## 標準的な展開例

05040210\_001

【準備等】長方形の紙、(正三角形の色板)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 変わり方のきまりを見付ける。[p.184]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○長方形の紙を2つ折りに順々に折っていき、折り目で分けられた長方形の数を調べる。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★表にかいてきまりをみつけよう。</li> <li>○表に整理して、きまりを見付けて、長方形の数を求める</li> </ul> <p>○表を使って見付けたきまりを説明する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 数の少ない場合から規則を見付け、問題を解決する。[p.185]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★少ない場合から順に調べてきまりをみつけよう。</li> <li>○階段の図を実際にかいて調べる。</li> </ul> <p>○表に整理して、変わり方のきまりを見付ける。</p> <p>○表から見付けたきまりを説明する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりを見付けた児童には、そのきまりが成り立つ理由についても追究させる。</li> <li>・4, 5回までしか折れない長方形の紙を用意し、少ない場合をもとに多い場合を考えなくてはならない状況を作る。</li> <li>・長方形の数の増え方が、2, 4, 8, …と前の2倍ずつになっていることに気付かせる。</li> <li>【評】きまりを見付けて問題を解決する方法を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・児童の説明を基に、表を横に見て、きまりを見付けたことが分かるように板書する。</li> <li>・少ない場合から順に、折った回数と折り目の数の関係を、表に整理して考えさせる。</li> <li>・ひごを並べたり、表をかいたりする活動によって、問題解決の糸口を与える。</li> <li>・縦に並んだ色板から数え、次に横に並んだ色板を数えさせたり、数えた色板に印を付けたりさせる。</li> <li>・きまりが見付からない児童には、「段の数が1つずつ増えると色板の数は何枚ずつ増えるか」と助言し、増え方のきまりを見付けさせる。</li> <li>・表を対応の見方で見ることができない児童には、「色板の数は段の数の何倍になっているか」と助言し、対応の見方を見付けさせる。</li> <li>・「表を横に見る」、「表を縦に見る」というそれぞれの見方を表を指さしながら説明させる。</li> <li>【評】数の少ない場合から順に調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> </ul>

## 【 備 考 】

第4学年では、変化の様子を表にかいて、数量の関係を調べる学習をした。その学習の発展として、本単元では、変化の様子を帰納的に考えて問題を解決することにより、「少ない場合から調べ、きまりを見付ける」思考法を育てる。実際に行うと大変なことが計算で求められることのよさを感じられるように、単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

ここでは、長方形の紙を折るという活動から、実際に折って調べることができない場面に直面させて、調べ方を工夫させる。その後も、操作活動を行うことで、問題意識をもたせたり、数量関係に気付かせたりしている。